

六万部塚

匠 瑤 探 訪

150

県立飯高特別支援学校から多古方面に県道16号線を進むと、金原新田集落入口の左側に林と畑があり、その周辺が「六万部」と呼ばれています。林の中には「六万部塚」と言われる古墳があり、地名を伝える石塔が建っています。

卵型の墓石には「妙経六万部 日賢」と刻まれ、これが由来になっています。

す。他に刻まれた文字を少し詳しく見ると、この墓石が建てられたのは1732(享保17)年2月24日で、日晋が「遺望によつて」とあることから、自らも2万部のお経(法華経)を唱えたのを機に、師に当たるとみられる日賢の供養塔を建てたのでしよう。本コーナーの今年2月号「御塚講 吉田を歩く」で紹介した供養

塔とつながるものがあります。

この墓石には次のような言い伝えがあります。

金原新田集落は江戸時代、幕府から禁止されていた日蓮宗不受不施派の信仰活動拠点でした。指導僧と信仰農民が集まり活動をした金原新田庵跡もあり、現在10余基の墓石が名残をとどめています。明治になり、不受不施派は再興し活動が認められますが、江戸時代後期には僧侶の墓石を土中に埋めてまでして信仰活動を続けていました。

再興後、墓石を掘り出し建て直したと伝われます。また、六万部塚の供養塔もその時まつられたと伝われます。

市内にはこうした隠れた史跡が何か所あります。

(市文化財審議会委員・依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080



六万部塚の石塔